

編集を終えて

日々とりくむ、がんのピアサポートの現場で、実際に感じ取った喫緊の課題が、手厚い相談支援を必要とする高齢がん患者さんを「どのように支えていくのか」「ピアサポーターにできることは何か」でした。

退院から在宅療養への移行に関しては、専門職による地域連携体制の構築が進められていますが、その構成図の中に、当事者の身近な相談役としてピアサポーターが位置しようとする本事業は「地域に根ざしたがんのピアサポート」を活動テーマに掲げる私たちにとって、時宜を得たものであったと思います。

本事業のキーワードである「連携」に関する実践的内容に的を絞り、本書をまとめ上げる作業は、とうていミーネット事務局だけで完結できるものではありません。実際に現場で相談支援にあたるとともに、相談事例の抽出や編集に携わってくれたピアサポーターの労なくして本書は成り立ちませんでした。

また、年度末のご多忙の中を、ピアサポートによる高齢がん患者対応事例に考察・講評を加えて下さった実行委員の皆様、そして、次なる展開に向けて本事業をご評価いただいた地域医療関係者の皆様におかれては、がん体験者とその家族という当事者団体である私たちが持ち合わせない高い専門性と見識をもって、私たちの取り組みへの温かいエール、あるいは今後に期待を込めてのご指摘をいただきました。それにより、事業展開への課題が明確化されたことに、心から感謝を申し上げます。

多くの方々のお力添えのもとに刊行した本誌は、がんのピアサポート団体である私たちが地域連携を具現化するためのテキストとして、いま求められる高齢がん患者さん支援の地域におけるあり方、そしてピアサポーターのあり方を社会全体で考えるための提言書として、広く発信していきたいと思っております。

平成 28 年 3 月

NPO法人ミーネット 本誌・制作事務局

杉浦(花井)美紀 伊藤 和直 浅井 正子 土肥 恵

